定例総会
日時：平成１５年９月２４日　12：30～
座長：美宅副会長（年会実行委員長）
出席者 65 名、委任状 88 枚（総会成立）

柳田会長挨拶
まず柳田会長のはたらきかけで、出席者全員により故京極先生、故松本先生の業績に感謝し、ご冥福を祈って一分間の黙祷が捧げられた。

報告、承認事項
１．平成 16・17 年度役員選挙結果の承認（柳田会長・佐甲選挙委員長；配布資料あり）
（１）平成 16・17 年度委員
佐甲選挙委員長より平成 16・17 年度の役員選挙結果の報告と審議が行われた。平成 16・17 年度委員は一般会員による選挙の結果、資料のように選出された。これは、出席者により承認された。
（２）科研費審査委員候補者
科研費審査委員候補者も一般会員による選挙を行い、それをもとに資料のように選出した。これは、出席者により承認された。
（３）第 19 期日本学術会議生物物理研連委員候補者
第 19 期の日本学術会議生物物理学研究連絡委員候補者の学会推薦者を学会委員による選挙を行い、資料のように選出した。これも出席者により承認された。
（４）平成 16・17 年度の副会長
昨日の新旧合同運営委員会において、難波啓一委員が平成 16・17 年度副会長に選出された。出席者はこれを承認した。
（５）平成 16・17 年度運営委員
同じく昨日の新旧合同運営委員会において、平成 16・17 年度の運営委員 7 名（石島秋彦、宇高恵子、片岡幹雄、金城政孝、国岡由紀、安永卓生、若杉桂輔）が選出され、その結果が報告された。出席者はこれを承認した。また、監事候補者として津田基之先生が提案され承認された。
新会長、新副会長、新運営委員による自己紹介があった。

２．平成 14 年度決算報告ならびに監査結果報告（(阿久津委員・柳田会長）
阿久津委員から平成 14 年度の決算報告があった。収入・支出の詳細が報告された。特に広告収入が暫減している点、ここ数年は年会での広告収入などによる黒字によって学会全体として健全な財政であることが強調された。総計では約 700 万円の黒字であった。

引き続き平成 14 年度の会誌電子化・将来事業特別会計の決算報告があった。一般会計の繰越金を用いて運営している。平成 14 年度は一般会計から 100 万円入れた。主に事務費・会誌電子化の費用に３０万円用いた。

この会計に関して会計監査の郷通子先生・葛西先生の承認を受けていることが柳田先生から報告された。

３．平成 15 年度会計中間報告（阿久津委員）

現在までの収入について詳細な報告があった。また、現在までの支出について、特に学会事務センター業務委託費（業務内容の変更に伴う）、人件費（会長秘書の雇用形態の変更に伴う）、支部費（中部支部設立に伴う）の増額についての詳細な説明があった。また、平成 15 年度の特別会計の中間報告があった。

４．平成 15 年度の事業中間報告と今後の計画（柳田会長）

１：第４回東アジア生物物理学会議　平成 15 年 11 月 3 日～6 日（台北）

参加者が少ないと聞いているので、是非参加して盛り上げていただきたい。

2：会誌電子化とオリジナルジャーナルの発行

現在運営委員会で議論されている内容について、以下が読み上げられた。

———

（1）日本語の解説中心の会誌に対して、英語の一次論文ジャーナル部分を追加する。日本語タイトルは、「日本生物物理学会誌」、英語タイトルは、「Biophysics」とする。これはすでに雑誌としての承認を受けている。

（2）現在の日本語の会誌は、今までどおりの紙版と電子版を出版する。これに対して、英語一次論文ジャーナルは電子版でのみ出版する.

（3）日本語の会誌の編集委員会は今までどおりの体制で行う。英語の一次論文ジャーナルは編集実行委員長（仮称）を中心に比較的小さな規模でスタートする。

（4）新体制の会誌は、2005 年 1 月からスタートする。それに向けて、2003 年 9 月の総会で大筋の承認を受け、12 月の運営委員会で具体化する。4 月頃から宣伝を始める。

（5）印刷・出版会社としては 2 社を検討している。今までの実績、電子化の実力、出版費用等総合的に検討した。今後の出版には電子化がポイントとなるが、この点の詳細を詰めることを確認した。

———

柳田会長から、運営委員会では経済的負担が大きく、現実可能でありそうならば、以上のような方針で進めたいと考えているが、出席者からの承諾をいただきたいとの旨が述べられた。

出席者から、「一次ジャーナル部分はどのくらいの規模を見込んでいるのか？」という質問があった。柳田会長は、個人的意見と断りながら、「一定の規模を保つのは大変なので、良

い論文がない号にはゼロ報でもよいとする、と考えている。」「英文誌をつくる意義の一つは「Advances In Biophysics」が廃刊になることを反映しており、海外に向けて情報発信をしている学会として認知され、PR にもなると考えている。」
出席者「であれば、現在のレビューも将来は英文になるのか？」
柳田会長「（現在そのような議論はされていないが）これからの議論によってはそうなるかもしれない。」
永山委員からコメントがあった。「過去に、国際生物物理連合の会議で国際誌をアジアを中心に出版する話があり、その誌名が「Biophysics」であったが、誌名の問題は大丈夫だろうか？また、ロシアにも「Biophysics」というジャーナルがあるはず。」
柳田会長「誌名や形態などはこれから議論を進めていかなくてはいけないと考えている。石渡会長のもとで議論されて築きあがると期待している。まずは大きな方針として先ほど述べたことを承認していただきたい。」
出席者はこれを承認した。
５．平成 16 年度事業計画（石渡次期会長）
１：第 42 回日本生物物理学会年会
平成 16 年 12 月 13 日～15 日（京都国際会議場）　年会実行委員長：森島績（京大院・工）
２：会誌電子化とオリジナルジャーナル発行
規模の問題、英語化の問題、請負業者の問題などを詰めて具体化していく。
３：東アジア生物物理シンポジウム
次回はおそらく日本開催であるので、対応していきたい。
４：男女共同参画、若手の問題に関して積極的に取り組みたい。
６．続いて、平成 16 年度の予算案について阿久津委員から報告。
収入については、機関会員費、賛助会員費が暫減しているのでそれを反映させて予算を立てた。それ以外は例年どおり。支出は支部費、人件費、学会事務センター業務委託費等の増加、会長交代に伴う予備費が計上されており、それ以外は例年どおり、収入 30，940，000 円・支出 37，690，000 円で赤字として予算を組んだが、予算に組み込めない広告収入と雑収入が期待されるため、結果的にはバランスできると考えている。予算の上では繰越金でバランスさせた。出席者はこれを承認した。続いて、会誌電子化・将来事業特別会計予算案の報告があった。オンラインジャーナルの本格運営の費用として 300 万円計上した。これも承認された。

名誉会員の推挙（柳田会長）
「本会に対し功労のあった個人」で「会長経験者で 63 才以上の会員」として第 17 号名誉会員として宝谷紘一先生を推挙し、名誉会員証を授与した。宝谷先生からは「生物物理学会

はこれから大きく発展するポテンシャルを備えているので、皆さんに活躍を期待します。応援します。」との言葉を頂戴した。
参考：日本生物物理学会名誉会員（敬称略）
第１号　故　小谷正雄、第２号　大澤文夫、第３号　今堀和友、第４号　渡辺格、第５号　故　寺本英、第６号　故　右衛門佐重雄、第７号　和田昭允、第８号　故　大井龍夫、第９号　江橋節郎、第 10 号　朝倉昌、第 11 号　大西俊一、第 12 号　池上明、第 13 号　故　京極好正、第 14 号　葛西道生、第 15 号　郷　信広、第 16 号　郷　通子

その他
柳田会長から次回、次々回の年会について報告があった。
第 42 回年会　平成 16 年 12 月 13 日～15 日、京都国際会議場　年会実行委員長：森島績
第 43 回年会　北海道地区　年会実行委員長：新田勝利、日時・会場（未定）
美宅実行委員長から今年会の中間報告があった。
初めて大学以外の会場を使うこと、東京が中心となりながらも新潟で行うこと、神経化学会と合同で行うなどの新しい試みばかりであったが、事前登録 850 人＋当日参加 350 人、計 1300 人弱の参加者（若干の赤字）が見込まれる。また、懇親会の参加が促された。
なお、柳田会長はこの総会を最後に会長を引退される。最後に柳田会長から挨拶を頂戴した。

以上
議事録作成：薬師寿治